

推奨学年：  
第4学年～

小学生の音楽4 P.9、21

## 「リズムでなかよくなるう」

### 育てたい力

- ・拍やそのまとまりを感じてリズムで表現したり友達と合わせて演奏したりする。
- ・自分から進んで友達と協働して拍にのって楽しみながら動いたり、リズムを打ったりする。

### 教材や教具

#### ●音源

「しあわせなら手をたたこう」 木村利人 日本語詞 アメリカ民謡

「小さな世界」 若谷和子 日本語詞 リチャード シャーマン・ロバート シャーマン 作曲

#### ●教科書の二次元コード

第4学年 P.8 「小さな世界」

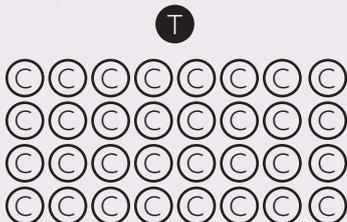
#### ●指導用オルガン（またはピアノ、メトロノーム）

### 場の設定

① 机のない教室では、縦横とも列をそろえて並ぶ。

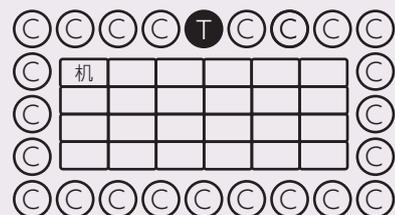
<例>

指導者 **T** は学級全体が見える位置に立つ。



② 机がある場合は、できる限り中央に寄せてスペースを広く取り、子供 **C** が机の外側で大きな口の字型になって内側を向いて並ぶ。

<例>



1 まねっこリズムで楽しもう

体のいろいろなところでリズムを打ち、友達と音をそろえとともに音色の違いを楽しむ (①の場の設定)。

1 指導者や友達とリズムを唱えながら手拍子で模倣する。

<例>

		→		
	タン タン タン (ウン)			タン タン タン (ウン)
		→		
	タン タ タタン (ウン)			タン タ タタン (ウン)
		→		
	タ タ タ タタン (ウン)			タ タ タ タタン (ウン)
		→		
	ターン タタン (ウン)			ターン タタン (ウン)

2 指導者や友達とリズムを膝打ちで模倣する。



次に、座って「膝」をたたいてみましょう。  
「タン」や「タ」と言ったら右手、「トン」や「ト」と言ったら左手で打ってくださいね。

<例>

		→		
	タン トン タン (ウン)			タン トン タン (ウン)
		→		
	タン ト トタン (ウン)			タン ト トタン (ウン)
		→		
	タ ト タ トタン (ウン)			タ ト タ トタン (ウン)
		→		
	ターン トタン (ウン)			ターン トタン (ウン)

3 指導者や友達のリズムを、友達の肩を打って模倣する。



では今度は、友達の両肩に手を乗せて、さっきと同じように、「タン」や「タ」と言ったら右手、「トン」や「ト」と言ったら左手で優しく打ってください。

## ポイント👉

- ・ここでは、「相手と同じリズムを打つことができているか」がポイントです。また、指導者も子供も「タントン タン (ウン)」などと声を出し、リズムを確認しながら活動することで、体と頭が自然とリズムに慣れていきます。そして、単純なリズムや同じリズムでも、打つところを順に変えていくことで、音色や強弱の違いを楽しみながら集中して取り組むことができます。友達の肩でリズムを打つときは、相手のことを考えて強さを加減することも大切です。そして、手と肩の感覚（感触）で、友達と同じリズムを打つことができているかを確認します。いつも同じ友達とではなく、「右向け右」などと声をかけて子供の組合せを変えながら取り組むと、友達の輪が広がります。

## 2 音楽に合わせて友達とリズムを打とう

音楽に合わせて、友達と手合わせをしたり体を動かしたりする（②もしくは①の場の設定）。

- 1 「しあわせなら手をたたこう」を友達と向かい合って歌い、合いの手の「**タンタン**」のところで手合わせをしたり、足踏みをしたり、体を動かしたりする。

## ポイント👉

- ・歌いながら手拍子などの動作をまずは一人で行い、そのあとペアで行ったり人数を増やしていったりすると、配慮が必要な子供へのステップにもなって、活動がスムーズに進みます。学級全員で一つの輪になって活動することもできます。
- ・お気に入りの動作などを考えたり、歌詞を変えたりすると、子供の気持ちもほぐれていきます。

<例>

しあわせなら	—	手をたたく	※最後は「しあわせなら手をたたこう」の歌詞 に戻ること、一体感や安心感が生まれます。
	—	足を鳴らす	
	—	肩をたたく	
	—	ウインクする	
	—	おしりをふる	

- ・指導用オルガンまたはピアノで伴奏を弾き、合いの手の箇所を伴奏をなしにすると、合いの手の音や動作をそろえることに子供が集中でき、そろったときの心地よさや和やかな雰囲気を生み出すことにつながります。

**2** 行進、または足踏みをしながら「小さな世界」(教科書P.8)を歌い、**イ**の部分では歌のリズムで友達と手合わせする。

- 1) 「小さな世界」を歌いながら**ア**の部分で行進、または足踏みをする。
- 2) **イ**の部分で行進をやめて友達と手合わせする。
- 3) 1番が終わったら相手を変えて1)2)を繰り返す(4~5回行う)。
- 4) 慣れてきたら**ア**で歌のリズムの手合わせをし、**イ**で「音楽に合わせた動き」をする。**イ**に動きを付けたときに、**ア**の行進や足踏みとは違った緩やかな動きをする子供がいた場合、それを学級全体で取り上げて、みんなで模倣する。



どうしてさっきみたいな動きをしていたのですか。

**ア**より**イ**のほうが、長いリズムになったからです。



なるほど。**ア**の細かいリズムに対して、**イ**は長いリズムになっているからですね。よいところに気が付きましたね。

- 5) D.C.のあとはクラスを半分に分け、半分はペアになり**ア**の歌のリズムで手合わせをし、もう半分はペアで横に並んで座り**イ**のリズムで、隣り合った互いの膝を片方の手で打ち、もう片方の手で自分の膝を打つ。そのあと、**ア**と**イ**を交替する。

**ポイント**

- ・まずは、同じリズムをそろえて打てるようになることが大切です。
- ・そのあと、隣から違うリズムが聴こえても、自信をもって自分のリズムを打てるようにするために、友達と手合わせをします。
- ・手合わせのときは、伴奏を少し小さくしたり止めたりして、手合わせの音がよく響くようにすることも大切です。
- ・「歌いながら手合わせをする」「手合わせだけで重ねる」など、音を合わせる活動を取り入れることで、歌唱のみの活動に戻ったとき、互いの声をよく聴き合うことにつながります。

**3** リズムゲームで楽しもう

「駅名リズム」を模倣したり、リレーしたりする。

**1** 声で「駅名リズム」を模倣する。

次ページの<例>を1小節ごとにリズムカードにして、子供に提示し、声で「駅名リズム」をまねする。

※ここではメトロノームや指導用オルガンのリズムボックスを鳴らさずに行う。

<例>

とうきょう かんだ あきはばら おかちまち  
うえの うぐいすだに にっぼり にしにっぼり たばた  
こまごめ すがも おおつか いけぶくろ

- 2** 声と一緒に「駅名リズム」を手拍子で打ったり足踏みしたりする。うまくできるようになったら、声を出さずにリズムだけにする。

※慣れてきたらメトロノームや指導用オルガンのリズムボックスを使って、拍を意識するよう促す。



では、声と手拍子でリズムをまねっこしてみましょう。



次は、声を出さずにまねしてください。

- 3** 好きな「駅名リズム」を選んで、友達とつなげてリレーしたり重ねたりする。

三人～四人のグループになり、自分の選んだ「駅名リズム」でリレーする。

<例1>

とうきょう かんだ こまごめ あきはばら



このつなげ方はどんな感じがしましたか。

細かいリズムでだんだん音が増えて盛り上がる感じがしました。



最後が「決め」みたいな感じがします。



音が増えていくので、だんだん迫ってくる感じがしますね。

<例2>

Aさん Bさん Cさん Dさん

おお つか た ば た う ぐ い す だ に う え の



このつなげ方はどんな感じが  
しましたか。

最初に休符があるところと、4  
拍目をBさんとつなげていると  
ころが面白いです。



細かいリズムのあとに、長い  
リズムで終わったので、特に  
そう感じますね。

最後に静かに終わる感じで、電  
車がゆっくり止まるみたいでした。



**ポイント**

・声だけで → 声と手拍子で → 手拍子だけのように、段階的にリズムに慣れ親しむことで、無理なくリズムの引き出しを増やすことができます。友達とリズムでリレーしたとき、「どんな感じがするか」と問いかけ、それぞれのリズムから聴き取った特徴と感じ取ったこととを関連させながら、子供の思考を広げていくことが大切です。

**4 2小節のリズムで楽しもう**

指導者が打つリズムを模倣する。

状況に応じて、速度を変えたりメトロノームやリズムボックスを使ったりしてもよい。

<リズムの例>

♩=116~126

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

## ポイント👉

・①～⑥の例では、1小節目の4拍目を音符に、2小節目の4拍目を休符にしています。子供たちにリズムを提示する場合、慣れるまではこのように設定することで、終わりまで聴いてからスムーズに模倣することができます。逆に、慣れないうちから⑦や⑧のように1小節目の4拍目を休符に設定すると、2小節目を聴かずに模倣してしまいます。本活動では、このようなフレーズ感覚に慣れることが大切です。また、リズムを少しずつ変えて提示することで、苦手意識をもたずに進めることができます。そして、リズムの模倣にとどまらず、友達と二人でつなげれば、「呼びかけとこたえ」の音楽をつくることもできます。

## 5 「ベジタブル リズム」で重ねよう

声や手拍子を重ね合わせ「ベジタブル リズム」を表現し、リズムの重なり合う面白さを感じ取る。

状況に応じて、速度を変えたりメトロノームやリズムボックスを使ったりしてもよい。

<例>

①声で重ねる    ②声と手拍子で重ねる    ③手拍子だけで重ねる

♩=116~126

The musical score consists of two systems of four staves each, in 4/4 time. The tempo is marked as ♩=116~126. The lyrics are: ト マ ト きゅ うり ブロッ コリー ジャがいも. The first system shows the lyrics under each staff: Staff 1: ト マ ト, Staff 2: きゅ うり, Staff 3: ブロッ コリー, Staff 4: ジャがいも. The second system shows the lyrics under each staff: Staff 1: ジャがいも, Staff 2: ブロッ コリー, Staff 3: きゅ うり, Staff 4: ブロッ コリー. The score uses various rhythmic notations including quarter notes, eighth notes, and rests to illustrate the 'vegetable rhythm'.

### ポイント👉

- ・それぞれのリズムが異なるので、重ねると効果的です。①→②→③の順で取り組み、リズムの重なり慣れ親しんでいきます。子供が難しく感じているようであれば無理をせず、今日は①だけ、次の時間に②までと、少しずつ着実にできるようにすることが大切です。また、手を合わせる角度を変えたり、手を丸くすぼめて中を空洞にして合わせたり、胸や太ももなどを打ったり、足踏みをしたりして音色や強弱を変化させながら、リズムの重なり合う面白さを感じ取るようにして、少しずつ難易度を上げていくと、子供も緊張感をもって表現するようになります。

## 題材の学習内容や教材との関連

### 1 常時的な活動として位置付ける

拍子のある全ての音楽にリズムが関わってくることから、子供の発達段階や学習内容に応じて、リズム遊びで音楽表現を楽しむようにする。

1 授業の開始時に行う。

2 集会や音楽朝会などの始まりで行う。

### ポイント👉

- ・授業の開始時では、その時間に扱う教材に関係する言葉やリズムを用いて、声や手拍子でリズム遊びをすることにより、子供は無理なく授業に参加できます。
- ・授業や集会の始まりなどでは、「まねっこしてね」などと声をかけてからリズム遊びを始めることで、自然と子供たちが集中し、温かい雰囲気の中で授業を進めることができます。

### 2 題材の学習と関連付ける

「駅名リズム」を使い、題材のねらいに沿った活動の仕方を工夫して学習展開が無理なく行われるようにする。

1 第4学年 題材3 『いろいろなリズムを感じ取ろう』

『クラッピング ファンタジー 第7番 楽しいマーチ』（教科書P.20、21）の導入で行う。

- 1) 次ページの<例>の1～4のそれぞれのリズムを提示して、指導者と子供で模倣する（声や手拍子で行う）。
- 2) クラスを四つに分けて、1～4のリズムをリレーする。
- 3) リレーしたり重ねたりしてバッテリーリズムの面白さを感じ取る。
- 4) 時間に余裕があれば、<例>のリズムアンサンブルを手拍子で演奏して楽しむ。

<例>

参考音源  
最後の小節の繰り返し回数を工夫しています。  
(タップまたは読み取り)



### ポイント

- ・指導者と子供で模倣ができれば、リーダーと子供など、子供どうしで楽しむようにしておくと、今後の音楽づくりの学習などで、「呼びかけとこたえ」を使う場合に、友達と同じ内容でこたえる、違う内容でこたえるなど、グループ活動をスムーズに進めることができます。
- ・異なるリズムで重なる面白さを感じ取ることは、器楽教材「楽しいマーチ」の学習はもちろんのこと、歌唱や音楽づくりなど、表現領域全ての学習において、友達の声や音をよく聴いて活動を進めることにつながります。

## 2 第5学年 題材3 『いろいろな音のひびきを味わおう』

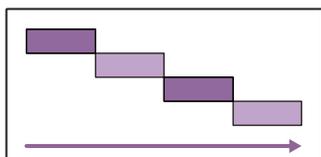
「打楽器でリズムアンサンブル」(教科書P.30~33)の導入で行う。

- 1) 「駅名リズム」や「ベジタブルリズム」を活用して、指導者と子供で模倣する。
- 2) 三人~四人のグループになって、使うリズムを選び、「つなげる」「呼びかけてこたえる」「重ねる」を試す。
- 3) 教科書(P.30またはP.32)のリズムで、楽器の組合せによる響きを確認しながら、どのようにつなげたり、呼びかけてこたえたり、重ねたりするかを考えて音楽をつくる。

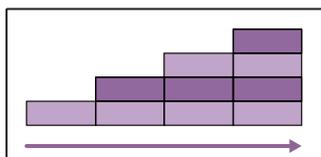
※子供の思考を広げるヒントとして、「音楽のかたち」を視覚化して掲示しておく。

<「音楽のかたち」の例>

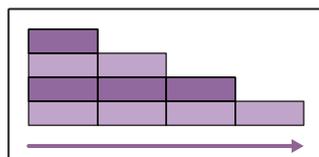
①つなげる



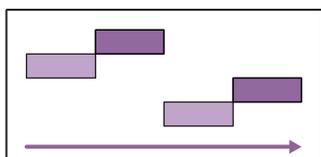
②だんだん増やす



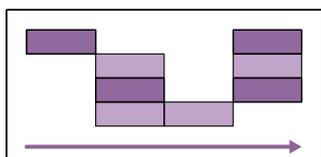
③だんだん減らす



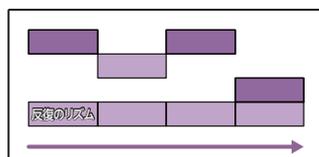
④呼びかけとこたえ



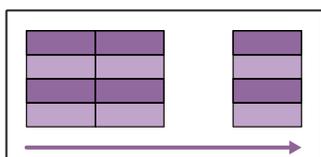
⑤一人とみんな



⑥反復のリズムによって、呼びかけとこたえ



⑦間を空ける



⑧自由なタイミングで

